

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)



公表 : 令和6年3月31日

事業所名 中津川市発達支援センターどんぐり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	○		指導室及びプレイルームは、指導内容によって可動式パーテーションで仕切って使用している。	今後も、スペースの有効利用を考えながら、利用定員を検討していきます。
	2	職員の配置数は適切である	○		一日20人定員に対し、児童発達支援管理責任者1名、指導担当職員5名で対応している。	配置基準以上の職員数を確保できています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		旧保育園舎を活用しているため、幼児に対応した施設である。	指導室内に不要な掲示物を置かない、使わない玩具などを児童の目につくところに置かないなどの配慮を行っています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		指導室にはエアコンを設置している。冬季はファンヒーター等の併用で過ごしている。	空気清浄器が全室配置されてなかったため、令和2年度に全室に配置しました。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に職員会を開催し、必要に応じて業務改善の検討を行っています。	行事の在り方や指導方法など、見直し、検討し、実行できる場を設けています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		全保護者対象に、アンケート調査を実施しました。	職員会で、集計結果について全職員に周知し、業務改善点について検討しました。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		集計結果をホームページで公表しています。	結果を踏まえて、「はい」以外の回答があった項目については、職場内研修にて支援方法などを見直します。また、保護者に分かりやすい掲示や、お知らせを配布する予定です。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	外部評価は、定期的には実施しておりません。	平成30年度は、教育評価委員による「教育評価委員会」で評価をしていただきました。事業周知をしっかりと行い、事業の充実に努めることという評価をいただきました。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		発達支援センター主催による「中津川市発達支援関係職員研修会」を3回実施しました。事業所内で事例検討や虐待防止研修を定期的に行いました。	職員の資質向上、よりよい支援のため、今後も定期的に研修を行います。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		児童発達支援管理責任者によるアセスメント、モニタリングを半年に一回、実施しています。	今後も保護者、本人のニーズや課題をとらえた計画策定に努めます。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	使用していません。	今後、導入していけるよう研究を行います。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインに沿った計画策定を行っています。	地域の園や福祉サービス事業所等との連携による支援を行っています。「地域支援」の観点からの計画内容の説明が不十分であったため、保護者の理解が得られるよう改善しました。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画に沿った支援が行われています。	児童発達支援管理責任者による助言、指導により、支援計画に沿った支援を行います。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員会などで検討を行っています。	職員会議等で、個々の課題を出し合い、支援内容を検討し、プログラムを構築します。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		職員間で発達内容に即した活動内容を検討し、実践しています。	今後も指導内容研修会参加や事例検討を行いながら、活動プログラムが固定化されないよう、考慮していきます。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	○		個別指導とグループ指導を組み合わせ指導を行っています。一人一人のニーズに沿って計画を作成しているため、個別指導のみのお子さんについては、グループ指導内容が計画に盛り込みにくい状況です。	個別指導を中心に計画策定しているため、今後グループ指導対象児については、計画に入れていきます。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		職員間の意思疎通を心掛けています。	朝礼や指導前に、活動内容の確認、協力体制の依頼など行い、スムーズに支援ができるよう心掛けています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援が終わった後、できる限り職員間で指導の振り返りをする時間を設けています。	次の療育に繋がるよう、支援の振り返りや、課題を話し合う時間を保障していきます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の指導記録の記入はその日のうちにを徹底しています。時間がなときはメモ書き等にして、翌日までには完了します。	指導記録により振り返りと懸案事項など、その都度、児童発達支援管理責任者が聞き取り、課題を見出し検証し、対応しています。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		児童発達支援管理責任者が6か月ごとのモニタリングを実施しています。	モニタリングにより、必要に応じて計画の見直しなどを行っています。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議に参加しています。	子どもにとって適切な支援を行えるよう、子どもの状況を把握している児童発達支援管理責任者が会議に参画しています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関との連携を各種研修会を通じて、密にしています。	「発達支援連絡会」「システム実務担当者会議」に参加し、健康医療課や教育関係職員などと連携を図り、発達の気になる子どもに対して、早期発見、早期支援に繋げていきます。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	現在、対象児の在籍はありません。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	現在、対象児の在籍はありません。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の同意を得たうえで、支援内容等の情報共有を行っています。	就園連絡会に参加し、各幼稚園、保育園、こども園への支援内容の引継ぎをしっかりと行います。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の同意を得たうえで、支援内容等の情報共有を行っています。	支援引継ぎシートを作成し、各学校への支援内容の引継ぎを丁寧に行います。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		他の児童発達支援センターや特別支援教育にかかわる機関との連携を図っています。	東濃特別支援教育連携協議会に参加し、東濃圏域の特別支援教育にかかわる機関や、児童発達支援センターとの連携を図っています。岐阜県障害幼児研究会及び東濃地区障害児指導方法研究会に加入し、研修会などに参加しています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	未就園児については、園交流の機会を作っていきます。	3歳以上児はすでに通園しているため、園交流は行っていません。未満児の園交流は今後積極的に進めます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	子ども家庭課との学習会に参加していますが、自立支援協議会への参加はしていません。	各部会や、地域の会議へも参加していきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		指導後に保護者と話す時間を取り、共通理解に努めています。	保護者に寄り添い、保護者の立場に立った助言、指導に努めます。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		計画的に開催ができ、通所児保護者半数以上の方に行っています。	保護者からの実施を望む声もあり、引き続き進めていきます。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		通所開始時に、書面を渡ししながら説明を行っています。	今後も、わかりやすく丁寧な説明に努めます。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		ガイドラインに沿って作成された計画を示しながら、説明を行い、保護者から同意をいただいています。	今後も、丁寧な説明に努めます。
保護者への説明責任等	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		6か月ごとのモニタリング以外にも相談に応じ、適切な助言等を行っています。	今後とも、丁寧な対応に努めます。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		児童発達支援管理責任者が同席し、定期的な役員会や茶話会の実施、学習会の開催など、保護者会の活動を支援しています。	茶話会の参加者が少ない状況ですが、保護者同士の交流を求める声はいただいています。なるべく多くの参加が得られるように、今後開催回数、時期や時間帯、お知らせの内容などを保護者会と共に考えていきます。
	36 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者からの相談には、担当職員や児童発達支援管理責任者が対応を行っています。	いつでも気軽に相談して頂けるよう、相談日を設定するなど体制を整えました。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、おたよりを発行し、行事予定などについて情報発信しています。	おたよりの発行に加え、行事の様子などを、ホームページなどで発信し、事業のPRに努めています。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○		園や保健センターなどとの情報共有には、保護者の同意をいただき対応しています。	SNSなどへの情報のアップについては、職員及び保護者に注意喚起を行っています。
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		意思疎通、情報伝達のための配慮を行っています。	落ち着いた環境でゆっくり話ができるよう、環境設定を行っています。子どもには、視覚支援などを行い、意思の疎通を図っています。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		クリスマス会など地域のライオンズクラブの皆様にご参加をお願いしています。	地域住民の方々にも知っていただけるよう、ホームページなども活用していきます。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○	訓練は定期的に行っていますが、保護者に向けての周知は不十分でした。R6年度に向けてマニュアルを作成しました。	マニュアルの周知を行います。定期的に訓練を行います。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		火災、地震訓練を実施しておりますが、全員を対象に実施することができませんでした。	災害発生時の対応方法や、避難経路など、掲示板等に大きく掲示したり、リーフレットを作成し保護者への周知を行い、全員対象の訓練を行います。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		通所開始時に、子どもの生育歴や健康状況などについて、保護者にアセスメントシートに記入していただき把握しています。	今後も、支援にあたり留意すべき点など、しっかり把握したうえで支援を行います。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食事指導は行っていませんが食物アレルギーの有無について、アセスメントシートに記入していただき把握しています。	現在、重いアレルギーを持つ子どもがいないため、医師の指示書までは取っていないが、今後対象となる子どもが通所した場合は、必要となりますので、対応できるようにします。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例が発生したときは、記録を残し、事業所内で情報共有しています。	職員会などで、事例に基づき、再発防止の対策をしています。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		中津川市が職員対象に実施する研修会等に参加しています。	職員会等で、研修内容を逐次報告し情報共有しています。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		職員間でやむを得ず身体拘束を行う対象児かの検討などを十分に行った上で、保護者に説明をし、計画に記載をしています。	今後も十分職員間で検討をしていきます。やむを得ず身体拘束を行わなくてもよい方向での支援ができるよう取り組んでいきます。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
--	--------	----	-----	---------	------------------------------

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。